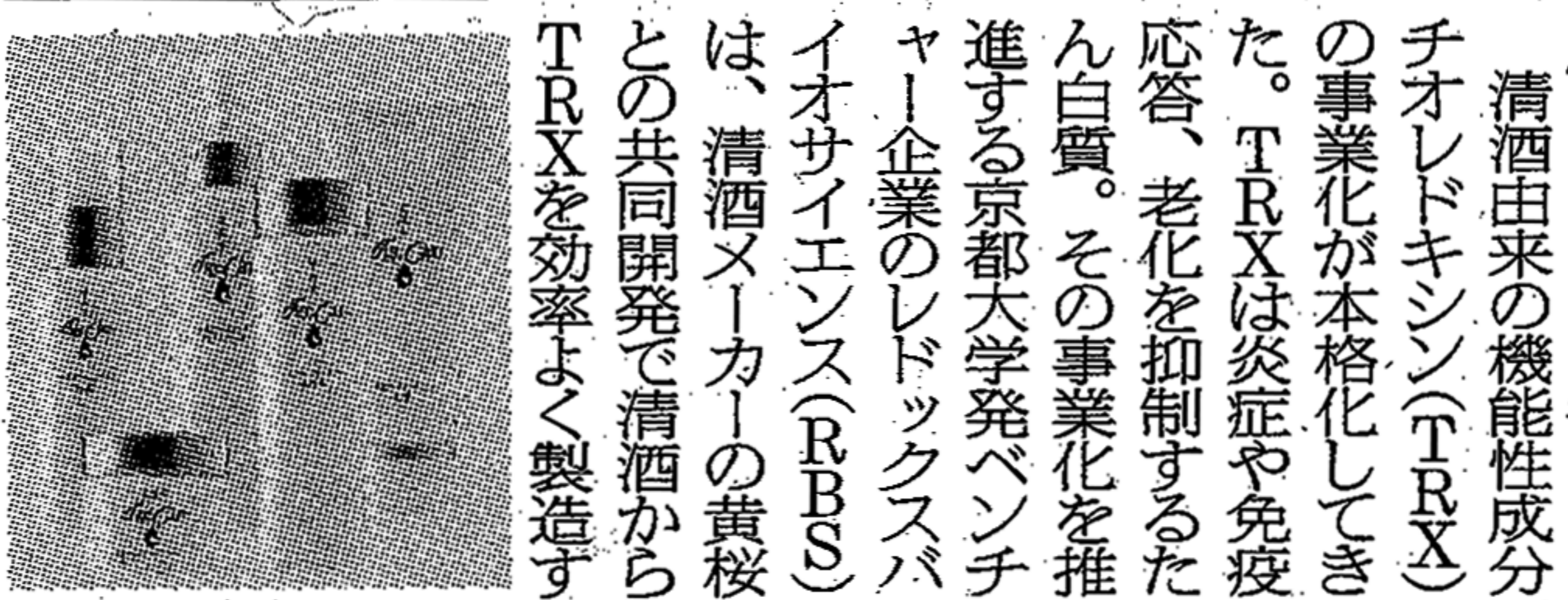


の成分由来の清酒機能

TRX事業化が本格化

京大発ベンチャー 黄桜から化粧品発売



清酒由来の機能性成分

チオレドキシニン(TRX)の事業化が本格化してきた。TRXは炎症や免疫応答、老化を抑制するたんぱく質。その事業化を推進する京都大学発ベンチャー企業のレドックスバイオサイエンス(RBS)は、清酒メーカーの黄桜との共同開発で清酒からTRXを効率よく製造することに成功した。黄桜は第一弾としてTRXを配合した化粧品「京美水エイジケア」(写真)を通販限定できょう1日から発売する。RBSと黄桜、原料メーカーのアリスタヘルスアンドニュートリションサイエンスの3社は清酒由来TRXの独占販売契約を締結しており、今後、医薬部外品や健康食品の分野でも製品化を目指す。

TRXは京都大学ウイルス研究所の淀井淳司京大名誉教授が発見した機能性成分。炎症や免疫応答、老化を抑制するたんぱく質で、淀井教授も取締役を務めるRBSでは産業利用を目指すなかで清酒酵母が生成するTRXに着目。清酒メーカーの黄桜と共同で通常1リットル中0.03リットルしか製造できないTRXを、発酵工程制御により100リットル、粉末で2リットルまで高めることに成功した。

TRXは少量配合でも機能性を発現できるとはいえ、1リットル当たり数十万円する高級素材。「需要が増えれば増産は可能」(黄桜)だが、現在の生産能力は年300キログラム。このため原料販売するアリスタは各分野のリーダーングカンパニーと先行して連携し、認知度を高める。今秋にはドラッグストアルートで高いシェアを持つ製薬メーカーからTRX配合の敏感肌用医薬部外品が上市予定。今後製品化を控えるエステ向け商材を扱う企業も業界トップという。原料はエキスを国内向けに、粉末を化粧品では乳液が好まれる海外向けに展開する。海外では大手化粧品メーカーなど複数企業が興味を示しているという。

同製品は抗炎症作用もある。防腐剤フリーで、W/O乳化、O/W乳化に調整でき、モデル処方にも用意している。

キビ跡を軽減させることも分かった。

トーンを均一にでき、長期間使い続けることで効果が高まった。また、南アフリカで18〜50歳の25人の女性を対象にした試験では、試験開始4週間後に有意に二

れは2014年にも自社管理下で栽培された植物を配合した化粧品の市場投入を目指す。

化粧品消費トレンドとして、ナチュラル・オーガニック志向が拡大している。また、近年相次いだ食品偽装などの影響

社工場における「顔が見える植物原料づくり」で消費者の安全・安心意識と、ナチュラル・オーガニック志向に配慮。今回、室内での植物栽培ができる植物栽培実験施設を設置したことにより、産地の気候変動など

工栽培との比較もできる。植物栽培実験施設では、これまでレタスなどの葉物野菜が栽培されてきた。今後は化粧品原料となるカミツレやメリッサ、ローズマリーなどハーブ植物の栽培に注力。効率的な栽培方法および植物由来化粧品原料の安定供給体制を確立させる。将来的には、原料メーカーと協力して生産量を拡大させる考え。